

芳醇な香味と水色優れる多収性品種「つゆひかり」

〔研究のねらい〕

- ・静岡県の茶栽培面積のうち90%以上が「やぶきた」で占められています。
- ・近年、摘採期の集中化や香味の画一化等「やぶきた」偏重の弊害が顕在化しているため、収量性、品質に優れ、「やぶきた」とは早晩性の異なる品種を育成する必要があります。

〔研究の成果〕

- ・来歴: 種子親「静7132」×花粉親「あさつゆ」
- ・交配年: 1970年(昭和45年)
- ・早晩性: 「やぶきた」に比べて2日早いやや早生
- ・樹姿: 中間型
- ・樹勢: 極強
- ・耐寒性: 赤枯れ「強」
- ・耐病性: 炭疽病「極強」、もち病「やや強」
- ・収量性: 成木「多」、幼木「極多」

10a当たり収量は、「やぶきた」に比べて本場では一番茶で129%、年間で131%と多収です。
山間地では一番茶が106%、年間で126%です。

- ・品質: 「上」

総合的に「やぶきた」と同等以上です。エメラルドグリーンの水色に加えて、芳醇な香気を持ちます。また、滋味はこくとうま味があります。



写真 一番茶新芽と水色

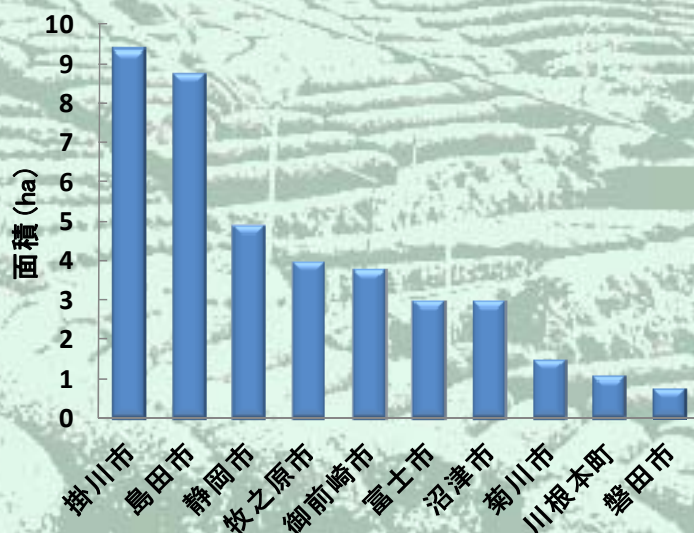


図1 市町別栽培面積
(平成20年、県茶業農産課)

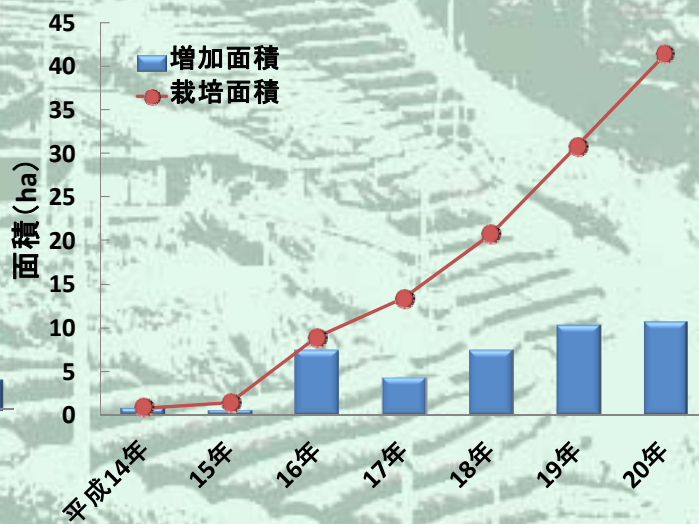


図2 栽培面積の推移
(県茶業農産課)